

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300575		
法人名	有限会社 海成水産		
事業所名	グループホーム館		
所在地	大分県大分市大字入蔵1095の4番地		
自己評価作成日	令和5年3月6日	評価結果市町村受理日	令和5年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4472300575-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府巻番館1F
訪問調査日	令和5年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間の田畑に囲まれた静かな環境に位置し、古民家を改造した懐かしさを感じられる住居で、施設の前の田畑には四季折々の花々が植えられ、夏には数千匹の蛍が舞い、自然豊かな環境でのんびりと過ごす頂ける。心も体も健康に過ごすには「食」が大切という考えから、地区のお米を使用し、野菜は地区の住民からの頂き物や職員の手作り野菜を使用、また施設周辺で採れた山菜を使い季節感のある食事を提供している。また、職員の半数が介護福祉士の資格を持ち、お一人おひとりの思いを大切に、情緒不安定の方にも自分らしく暮らせるような居場所を提供できるように日々努めています。本年度は2名の看護師も加わり急変時も速やかに対応し、安心して過ごせる環境整備も整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して20年目に入る民家改修のグループホームです。「笑顔・思いやり・感謝の心等」を理念として掲げ、利用者一人ひとりが自分らしく暮らせるよう、傍にいる時間・関わる時間を多く持ち、その人の「思いや意向」を把握 職員間で共有し支援に繋げています。利用者が心安らいで穏やかに暮らせるよう、民家を改修した建物内は生活感のある家庭的な空間となっており、昔の話をすることで認知症療法(回想法)の働きかけになっています。医療面では、提携医療機関による訪問診療中心の健康管理体制とともに、最期まで利用者・家族の「思い」に添えるよう、重度化、終末期支援に取り組んでおり、利用者・家族の希望を常に尊重した対応を取って支援しています。町内行事や公民館行事への参加、地域の回覧板での広報活動を通じて繋がりを深めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの目指すケア・方針を管理者・職員で共有し、玄関や居間に理念を掲示している。また、毎朝の申し送り後に全員で理念「気配り、目配り、心配り」を唱え理念に沿ったケアの実践につなげている。	全職員が理念を共有し、利用者の状態の変化時や夜勤の時、利用者への対応(言葉掛け)職員間の連携等で理念の実践に繋がっています。毎日の申し送り時に、理念の実践状況について振り返りの機会を持ち、日々のケアに活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員のほとんどが地域住民の為に地域の祭りに参加していたがコロナ禍で今年も交流をすることができなかった。また、介護等の相談があれば誠意をもって対応している。	管理者・職員に地域住民の方が多く、情報交換ができています。通常は、地域行事の参加、ボランティアの来訪等交流は続いていましたが、現在はコロナ禍により自粛しています。なお、状況が落ち着けば交流を再開する考えです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会は少ないが運営推進会議の際に認知症の方への接し方や支援の方法など助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策をして運営推進会議を実施し、近況報告や意見交換を行い、行政、包括センター、地域の方々から質問や意見をいただきサービスの向上に活かしている。	感染対策を行い、2ヶ月毎に運営推進会議を開催しています。コロナ禍による利用状況・面会方法・利用者の介護状況(介護度)等が、参加者から質問が出され意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいた時に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。また困った事があれば行政窓口に出かけたり、電話をして相談をしている。	コロナ禍の為、現在はメールでのやりとりを中心に市担当者と連携を図っています。運営上の疑問点等があれば、随時市担当者に相談し助言を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を2ヶ月に1回行い、身体拘束の具体的な行為やもたらす弊害を正しく理解し、身体拘束をしないケアを計画し、実践している。	身体拘束廃止・虐待防止に関して2ヶ月毎に研修・勉強会を開催・ミーティング時の事例をもとにした具体的な話し合いや、職員からの質問への応答を通して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。不適切ケアやスピーチロック等職員同士で注意喚起し意識付けを図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の人権や尊厳を守るため、虐待の勉強会を行い知識の向上に努めている。また、利用者の言動やあざ・外傷に注意し、虐待が見過ごされないように職員間でも互いに注意し合える関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を開き理解を深めている。また、利用者から相談があれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、利用者の家族等が納得のいく説明を十分に行い理解した上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際に気兼ねなく意見や要望を出しやすい環境を作り、年度末にはアンケート調査を行い意見・要望をいただいて運営に反映させている。また、玄関にご意見承り箱を設置している。	利用者・家族が何でも話せて意見を表出できる信頼関係作りに取り組んでいます。面会が思うように出来ない中、利用者の近況報告を「おたより」で家族に送付し、電話・メールで意見交換を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや勉強会、昼食休憩等で話しやすい雰囲気作り心がけ意見や提案があれば話し合い業務の効率化を図りサービス向上に反映させている。	毎日の申し送りや業務中の情報交換で丁寧にしつかり話し合い、意見や要望が出しやすい雰囲気を作っています。各職員の個性を活かし、能動的に考え行動できるよう環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の努力、実績を把握し各自が向上心を持って働けるように努めている。また、シフトを作成する際には個々の希望を入れ働きやすい環境・条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回の勉強会を行い、新入社員の不明な点、疑問点を聞き働きやすい職場づくりに努めている。法人外の研修は個々のレベルに応じ受けられるように機会を作り勤めているがコロナ禍で実施出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部の研修会等に参加して交流する機会はない。相互訪問等の交流もない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人や家族と面談し、本人の生活状況や不安・要望を伺い安心して過ごせるように信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族と面談し、本人の現状や家族の不安・要望を伺い良好な信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に本人や家族と面談し本人の必要としている支援を見極め、他の施設サービスの利用を含め、本人の希望を重視した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しながら、自分でできることは自分でして頂き、わずかな時間でも共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が面会に来られた時には本人の暮らしぶりや希望を伝え、共に本人を支えていく関係を築いている。また、必要な物は家族と相談し、手配している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	軽度の利用者には家族の協力を得て、昼食や買い物に、また以前住んでいた場所や、墓参り等に出かけられるよう支援していましたがコロナ禍の為実施できていません。	家族・友人等の来訪・家族との外出、馴染みの人との関係継続を支援しています。希望に応じて馴染みの場所(買い物・外食・墓参り等)への外出も家族の協力を得て支援していましたが、コロナ禍により行動制限があり、中止しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の性格・相性を把握し、居間の席を決めてお互いが良い関わりが出来るような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の都合で他の施設に転居される方はいないが、相談があれば支援できる関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる方には希望や思いを聴き希望に添えるように努め、意思表示が難しい方は日々の支援の中から生活の様子や行動・仕草、性格を考慮し本人の希望の把握に努め各人に沿った支援をしている。	利用者の傍にいる時間・関わる時間を多く持つことで、利用者との会話や様子からその「思い・意向」の把握に取り組んでいます。利用者の言動や把握されたことは具体的に記録、職員間で共有し支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時に生活歴、生活環境、サービスの利用等の情報を把握するようにしているが、不明な点は家族等の面会時に伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の一日の過ごし方、心身状態、体調の変化等ケース記録に記入している。また、申し送り時にも職員が現状把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族等の意向を聴き職員と担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングも職員と行っている。また、状態の変化等があればその都度見直しを行っている。	介護計画は利用者・家族・担当職員等関係者の意見を集約し作成されています。身体状態の側面だけでなく、本人の思いや意向を意識した計画となっています。モニタリングや会議・日常の会話の中で、現状に即したサービスを提供しているか振り返りを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫をケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。また、職員間にも確実に伝わるように白板に書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体力低下、体調の変化等によりその時々の変化するニーズに対応して、現状に即した柔軟な支援が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠出が困難になったので地域の祭りに参加したり、地域のボランティアの協力を得て楽しく豊かな暮らしができるように支援していたがコロナ禍で今は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療を月2回実施している。また、往診時には各自の状況を伝え、継続的な医療が受けられるように支援している。体調不良が起きれば主治医に連絡し往診等依頼し体調管理に努めている。	入所時、家族と話し合いを持ち従来のかかりつけ医を希望する場合、家族による通院が出来なくなった時は職員が対応し家族に受診結果を知らせています。体調変化の場合は、事業所の主治医への往診依頼で最善のケアに努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で体調変化があれば見逃さず情報や気づきを看護師に相談して主治医に連絡し、適切な指示を頂いたり、時には往診をして頂いて利用者が安心して生活できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際介護添書を提供し、安心して治療できるように、又早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。日頃からそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について施設でできる事、できないことの範囲を家族に十分説明し、終末期に向けた方針の共有と支援に主治医等と共に取り組んでいる。また看取りの為に家族が滞在できる場所も確保している。	重度化から終末期に至った時は、入所時の話し合いで家族の希望に沿った対応を施設内でできる最大限の支援を行うよう、主治医と職員全体で取り組んでいます。看護師資格を持つ複数の職員がおり、看取りの時も、家族の滞り場所確保や好みの着物や服を整えて送り出す等の提案をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強を行い実践力を身に付けている。また、ホール内に心肺蘇生法を貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年二回避難訓練や消火訓練を実施している。マニュアルを作り変え、緊急連絡網を整備し、連絡をすればすぐに地域住民の協力が得られる体制も整えている。また、敷地内に避難場所も設置している。	年二回、災害時・火災時等の避難訓練を実施しており、消火訓練や車椅子使用者が安全かつ速やかに第一避難場所へ移動できるよう非常口を2ヶ所設置し、夜間帯や大地震発生時には、地域との協力体制の重要性を認識し関係作りを強化しています。	災害発生時の課題として挙げられた避難場所へ移動する際の、安全面で利用者への適切な配慮を要する案件は、夜間や少人数での対応策を職員全体で重要性を認識される事を期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。特に排泄・入浴時にはプライバシー保護に気を付けている。	利用者へ声掛けやお願いをする時は、一人ひとりの特性を尊重し気分を損なわないよう、個別対応を心掛けています。目上の人であるとの認識を持ち、職員同士の会話もプライバシー遵守を、基本方針とした支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり自己決定できる方には、本人の意思を尊重し自己決定できるように支援している。出来ない方にはその時々様子、性格等を考慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて食事の時間を下げたり本人の意思を尊重し可能な限り希望に沿った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来る方には楽しんでいただけるように支援し、出来ない方には季節に応じたその人に似合う物を選んでおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる利用者を手伝って頂き季節の山菜、野菜を使用し季節を感じられる食事を提供し、できるだけ自分でおいしく食べて頂けるように声掛けしている。時には外食を楽しんで頂いている。	食事が楽しい時間となるよう、利用者に出る事を手伝って頂いたり、季節感のある食材で新しいメニューの希望を聞き、嫌いなものを残す方には無理強いをせず栄養補給に、ミキサー食や刻み食にしたら食べて頂けることがあり、工夫して支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定、定期受診等で各自の栄養状態を確認し対応している。また、嚥下状態に応じミキサー食や刻み食にしたり、またトロミを付け誤嚥を防止している。食べる量も各自個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭や舌苔が出来ないように、毎食後、一人で出来る方には見守り、出来ない方にはその方に応じた口腔ケアを行っている。また、歯や口腔内にトラブルがあれば受診したり、状況に応じ訪問診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で各自の排泄パターンを把握し、昼夜を問わず個別対応している。また、パターンに合わせたトイレの声掛けやトイレ誘導し、できるだけトイレで排泄できるように支援を行っている。事故防止にも配慮している。	利用者各自の排泄パターンを把握し、一日に何度も利用者の様子を見ながら声掛けし、出来るだけトイレまで歩いて誘導を行うことで、便秘予防やオムツを使用せずに排泄の自立支援が出来るよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使用した食事を提供し、毎日牛乳を飲む等便秘の予防に取り組み、できるだけトイレでの排便に心がけている。また、排便を毎日記録し、便秘には個々の状態に応じて便秘薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回以上の入浴を本人の希望や体調を考慮し、個々に応じた入浴支援を行っている。拒否される場合は順番を変更して再度声掛けしたり入浴日を変更したりして柔軟に対応している。	週二回入浴介助していますが、利用者の希望や体調を考慮して安全面に充分配慮し、機械浴による入浴支援を行っています。寒い時には、拒否の方もいますがタイミングを見計らい、再度声掛けし清潔保持のため柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良の訴えがないので顔色、バイタル等を見てその時々状況に応じ休んでいただいている。また、昼間は出来るだけ臥床せず日光浴等をして夜間気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース記録簿にファイルし、服用している薬がいつでも分かるようにしている。また薬の変更時は特に変化に気配りし症状の変化が見られたら直ぐに主治医に報告し薬の調整をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力・機能に応じた仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えている。また、得意なことや好みを把握し楽しく日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの機能・体調を考慮しながらできる限り外出できるように支援しているし、希望があれば同伴したり、家族と共に外出できるように支援していたが今は実施できていないが天気の良い日には家の近くの田んぼに咲き季節の花見に出かけている。	職員による自由な外出支援は、利用者の体調変化やコロナ禍のためできませんが、室内だけで何処にもいけない日々が長期間に及ぶ現在、ストレス解消や少しでも気分転換になるよう、利用者に合わせて移動支援を行い、周辺に咲き乱れる花や田んぼを眺めて頂いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は今はいない。訪問診療の為病院受診は少なくなり、買い物を楽しむ支援もコロナ禍の為外出できず今は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは無いが希望があれば電話を掛けたり、電話がかかってきた時には取り次いでいる。連絡を待つ利用者には定期的に電話を頂けるよう家族にお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・居室・廊下等に転倒時の怪我防止用マットを敷き、気温に応じ随時、施設内の温度や湿度の調整を行っている。また、季節の花を玄関、居間、居室等に活け、季節を感じ居心地よく過ごせるように工夫している。	一日の大半を過す共用空間を、利用者1人ひとり自分の家としてのんびりした心地よい居場所となるよう、安全対策を構築し怪我防止とリラックス出来るようソファや備品・家具・食卓用テーブルの配置を工夫し、コロナ禍のいま温度・湿度・換気に注意し安心して過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と談笑しているので、居間の席は利用者の相性、性格、健康状態を考慮して決めている。ソファでくつろぎたい方は車椅子から座り替えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の持ち込み物を安全面を重視した配置にし、居心地良く過ごせるように支援している。また、行事がある毎に写真を撮り自室の壁に貼ったりぬり絵等の作品も貼っている。	入所時、家族と話し合いを持ち、馴染みの家具や道具をそばに置くことで居室で過ごす時、利用者にとって居心地の良い自分の部屋となるよう支援を行っています。季節行事の写真や家族の写真・レクの塗り絵等で壁面を飾り楽しんでます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、手すりの設置、背丈に合わせたテーブルや椅子を用意し安全な生活が送れるように環境づくりをしている。		